別紙３

第３章 障害のある人等の現状と課題

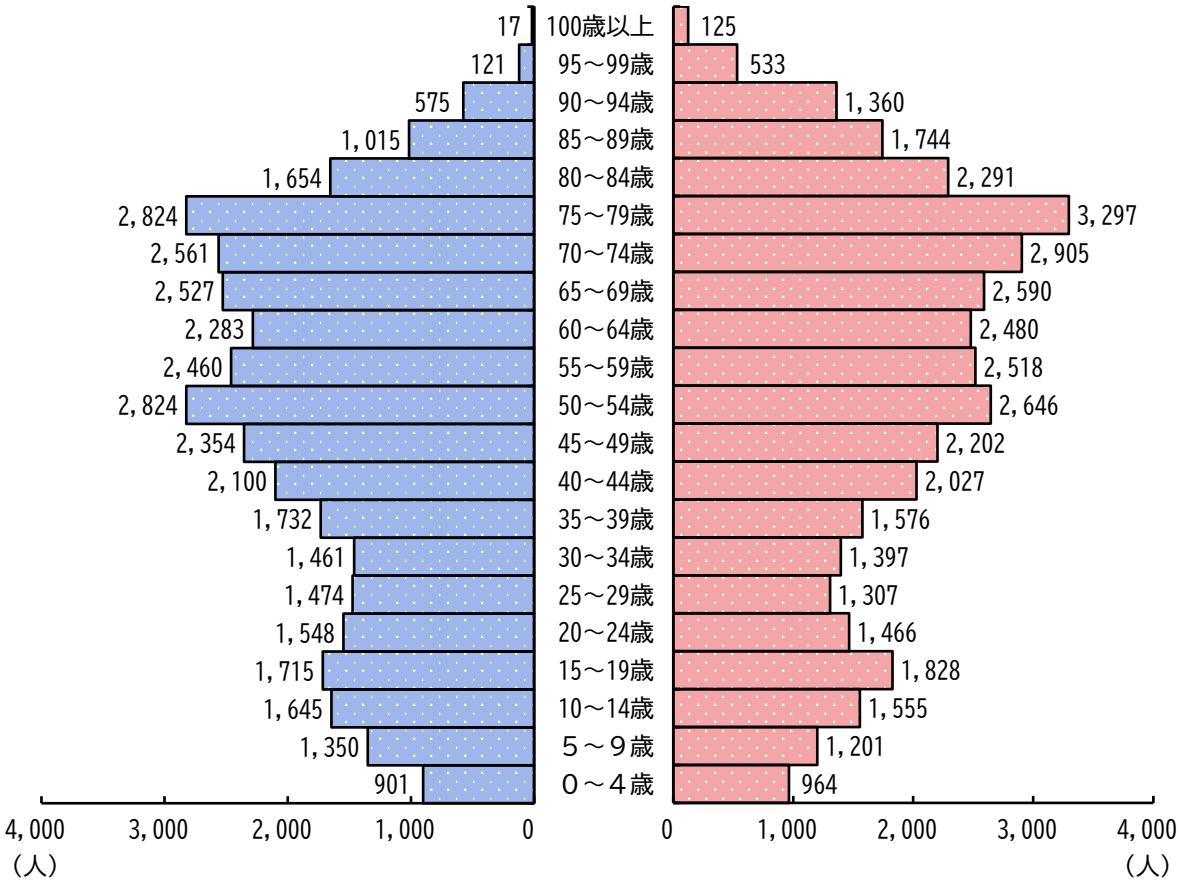
第１節 人口の現状

2026年３月末住民基本台帳をみると、豊岡市の総人口は73,153人となっており、男性が35,141人（48.0%）、女性が38,012人（52.0%）です。年齢全区分別では、０～14歳が7,616人（10.4%）、15～64歳が39,398人（53.9%）、65歳以上が26,139人（35.7%）となっています。

豊岡市人口（年齢５歳階級別）

【男性】35,141 人　　【女性】38,012 人

【合計】73,153 人



第２節　障害のある人の状況

（１）障害者手帳所持者の推移

本市の人口は、減少が続いており、2020年度から2025年度の６年間の推移をみると、79,446人から73,153人へと6,293人（7.9%）減少しています。

手帳所持者総数では、4,720人から4,558人へと162人（3.4%）減少していますが、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加しています。

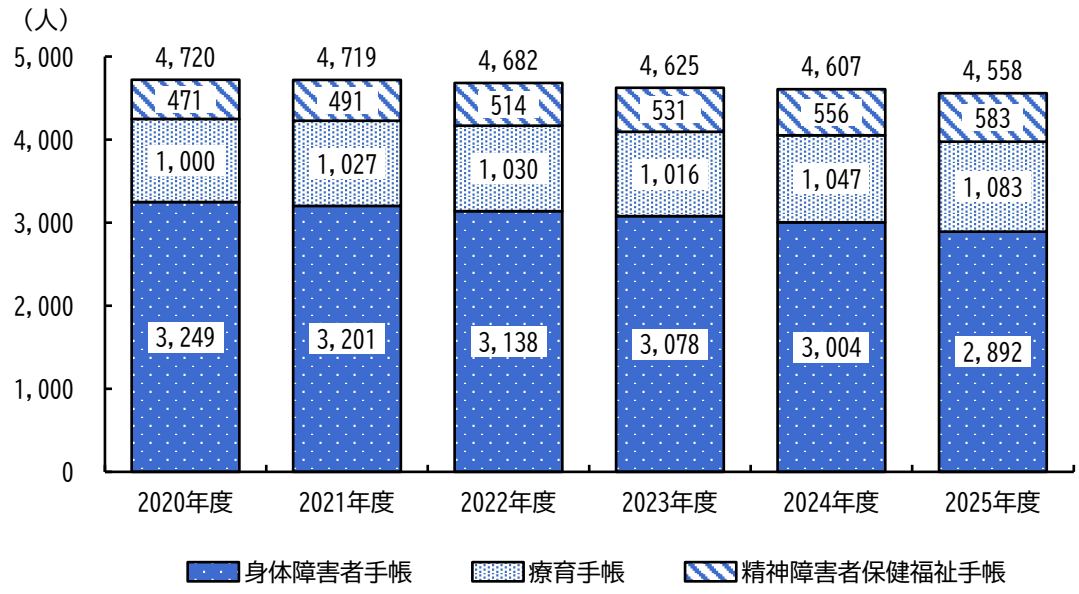
手帳所持者総数が人口に占める比率は、5.9～6.2%で推移しています。

■障害者手帳所持者数の推移

単位：人

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人口	79,446	78,348	77,180	75,919	74,604	73,153
身体障害者手帳所持者数	3,249	3,201	3,138	3,078	3,004	2,892
療育手帳所持者数	1,000	1,027	1,030	1,016	1,047	1,083
精神障害者保健福祉手帳所持者数	471	491	514	531	556	583
手帳所持者総数	4,720	4,719	4,682	4,625	4,607	4,558
対人口比	5.9%	6.0%	6.1%	6.1%	6.2%	6.2%

（年度末）

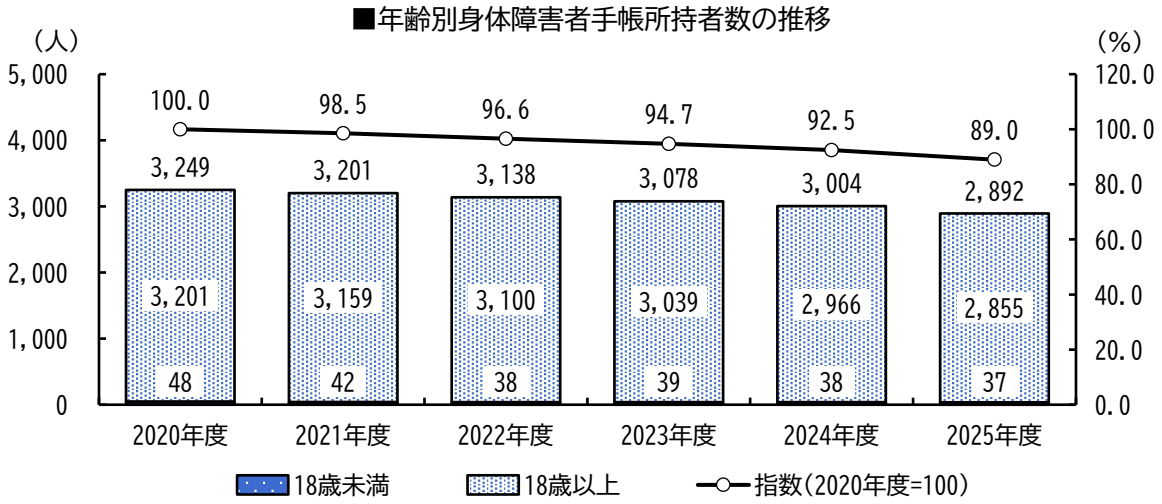


（２）身体障害のある人の状況

①　年齢別の身体障害者手帳所持者の状況

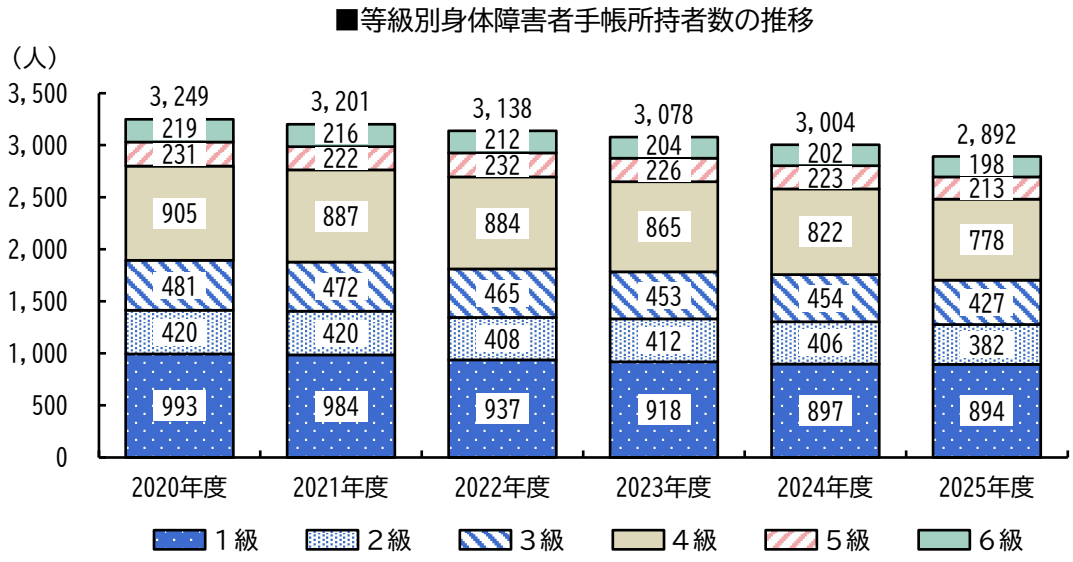
障害者（18歳以上）、障害児（18歳未満）ともに減少傾向がみられます。

2020年度から2025年度の６年間で、障害者は346人（10.8%）減少、障害児は11人（22.9%）減少しています。



②　等級別の身体障害者手帳所持者の状況

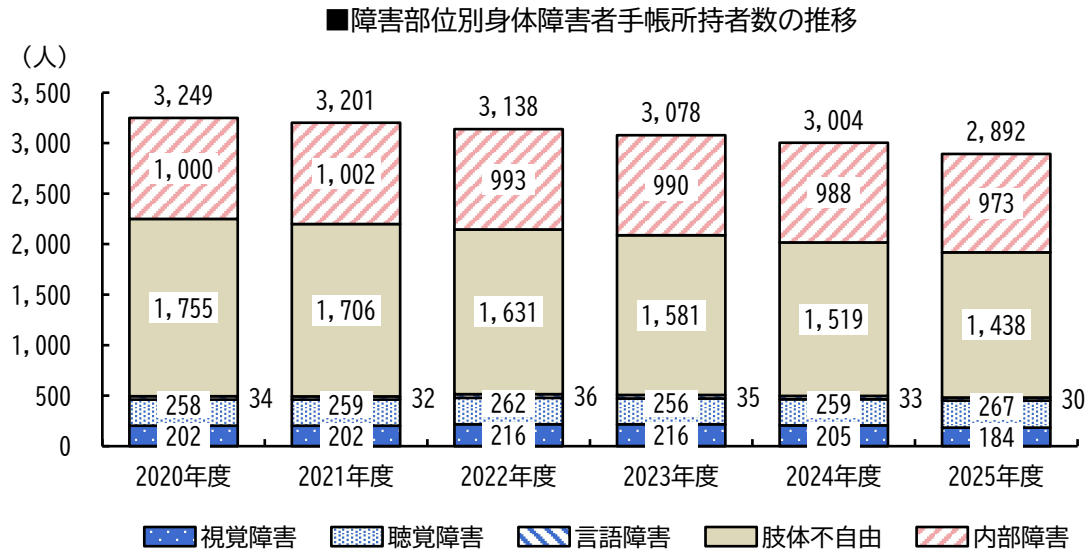
すべての等級で減少傾向がみられます。減少幅が大きいのは１級、３級、４級で、2020年度から2025年度の６年間で１級は99人（10.0%）減少、３級は54人（11.2%）減少、４級では127人（14.0%）減少しています。



③　障害部位別の身体障害者手帳所持者の状況

聴覚障害で増加傾向、視覚障害、肢体不自由、内部障害で減少傾向がみられます。

2020年度から2025年度の６年間で、肢体不自由は317人（18.1%）減少、一方、聴覚障害は９人（3.5%）増加しています。

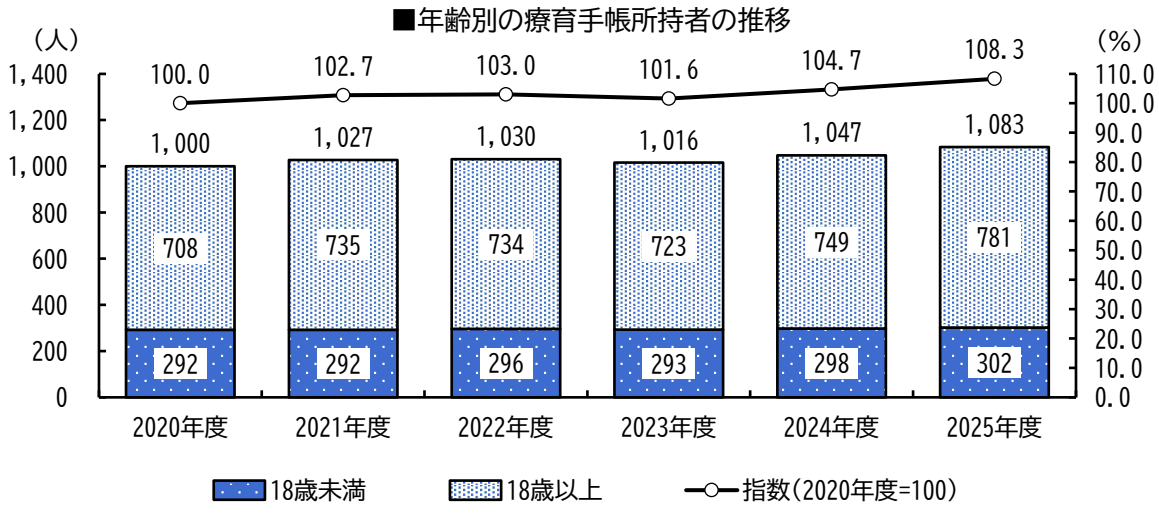


（３）知的障害のある人の状況

①　年齢別の療育手帳所持者の状況

障害者（18歳以上）、障害児（18歳未満）ともに増加傾向がみられます。

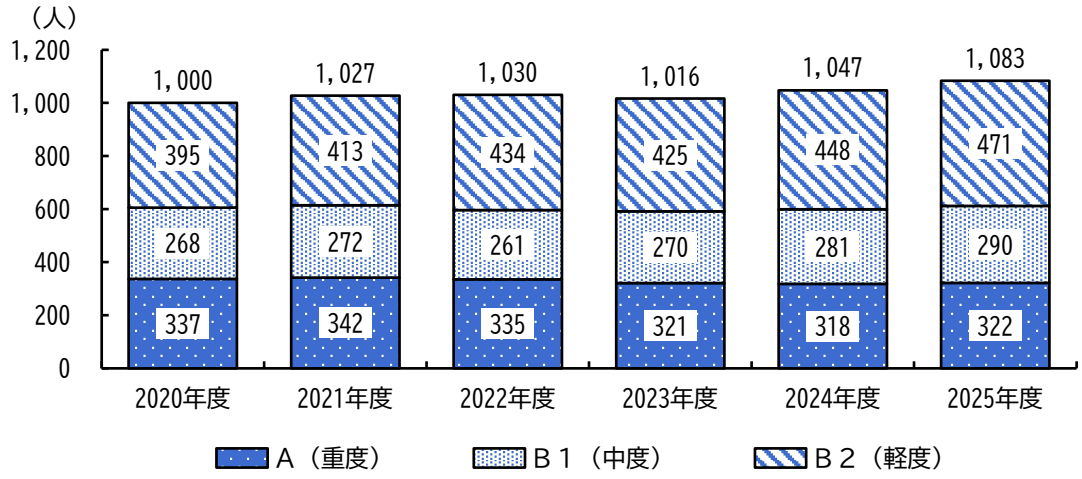
2020年度から2025年度の６年間で、障害者は73人（10.3%）増加、障害児は10人（3.4%）増加しています。



②　判定別の療育手帳所持者の状況

判定別にみるとＢ２判定（軽度）が増加傾向、Ｂ１判定（中度）は微増傾向、Ａ判定（重度）は微減傾向となっています。

■判定別の療育手帳所持者の推移

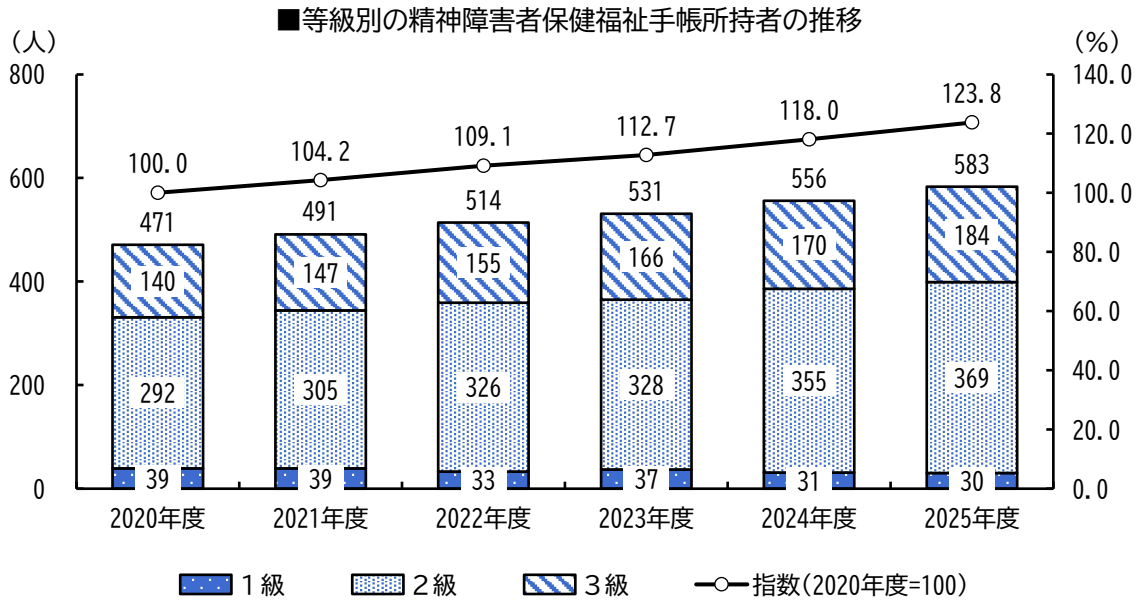


（４）精神障害のある人の状況

①　等級別の精神障害者保健福祉手帳所持者の状況

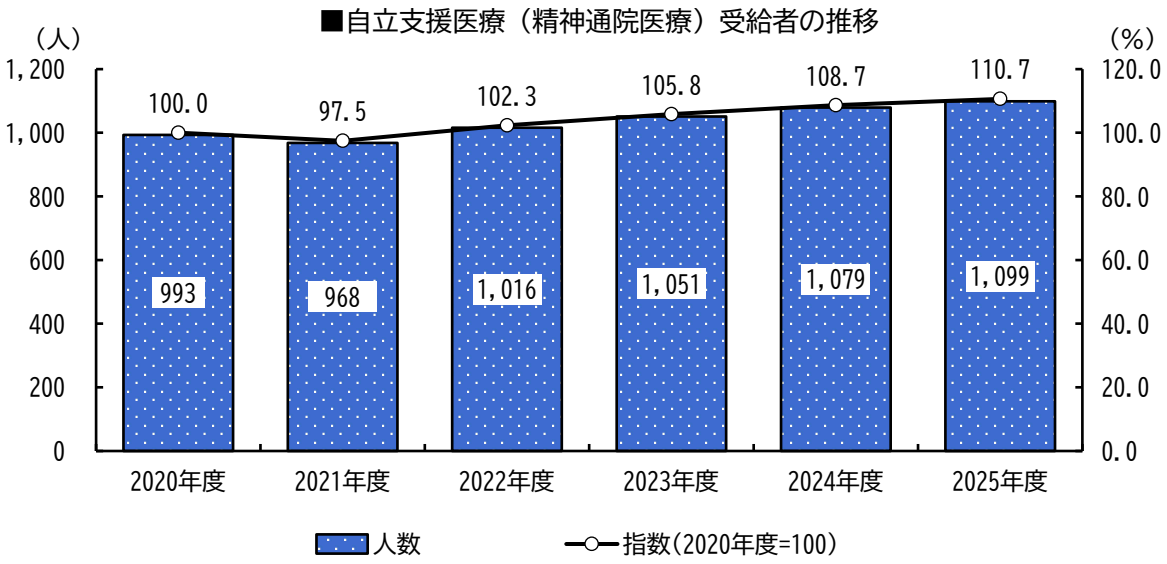
２級と３級では増加傾向がみられ、１級は2023年度まで増減を繰り返し、その後、減少しています。

■等級別の精神障害者保健福祉手帳所持者の推移



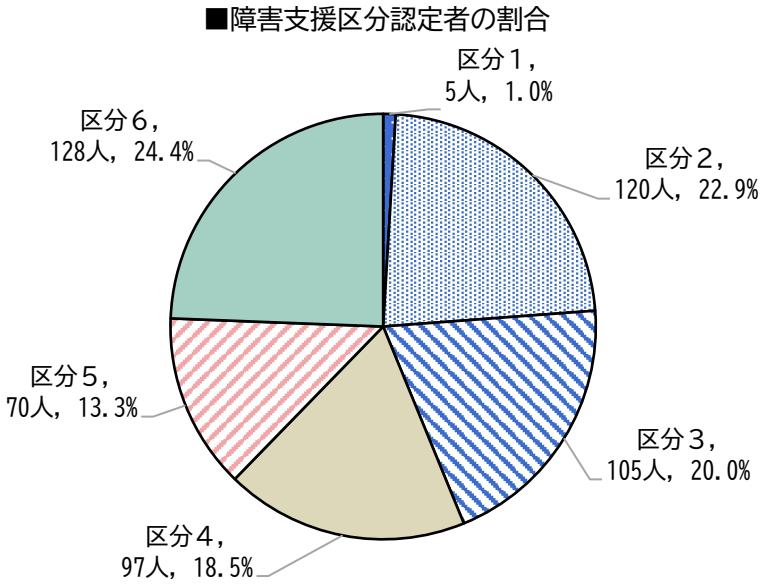
②　自立支援医療（精神通院医療）受給者の状況

自立支援医療（精神通院医療）受給者は、2020年度から2025年度の６年間で993人から1,099人へと106人増加しており、その増加率は10.7%となっています。



（５）障害支援区分認定者の状況

全体の中では、区分６の占める割合が最も高く、次いで区分２、区分３となっています。今後も精神障害者及び知的障害者の増加に伴い、障害福祉サービスの利用に必要な障害支援区分認定者は増加していくことが考えられます。



※　2025年度末現在
※　障害支援区分は、障害の多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示すものです。区分１に比べて区分６の方が、必要とされる支援の度合いが高くなります。

（６）指定難病受給者の状況

2020年度から2025年度の６年間で、618人から650人へと32人増加しています。

